
間桐の最強の魔術師

幻龍星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

間桐の最強の魔術師

【Nコード】

N0379Z

【作者名】

幻龍星

【あらすじ】

Fet a / z e r o の i f の物語です。これは作者の、処女作しかも駄文なので、嫌と言う人はバックをおすすめします

第0話（前書き）

こんにちは、幻龍星です。作者は厨二なのでよろしくおねがします

第0話

「知らない天井だ」

なぜ、こんなことになっているのかと一言で言えば転生しました、トラックに事故られ、変な神様がチート能力あげるから好きな世界に行つてと、言われ、赤ちゃんプレイかよーーと思つたら死ぬ前と同じからだでした

ちなみにチート能力はあとで説明するぜ

とりあえずどこだか、確認しようと移動したら。

「ようやく起きたか、氷夜いつまで寝てるつもりじゃ」

えー！ー！ーまさかの臓硯なんで、まさかここ、間桐の家！ー！俺が甲子園の決勝でサヨナラホームランを打たれたピッチャーのような格好をしていたら。

「なにをしている氷夜、聖杯戦争のための修行の旅の支度はできているんか、貴様は雁夜と違って家を次ぐのじゃぞ」

俺がなんで間桐の家をつがなくちゃならないんだよ、いやまてよちよつと聞いてみるか。

「なあ、臓硯おれは何者なんだ」

つと聞いてみたほかの人から見たらなにこいつ、頭がついにいかれたのかと思うがこれは大事だ。何故なら俺が誰なのかがわかるだ。

「なにを、言っているのだ氷夜、貴様はわしの息子で、雁夜の弟じやぞ」

第0話（後書き）

臓硯の口調が分からない、いやまじで。次はキャラ説明です

主人公説明（前書き）

タイトルのとおりです。

主人公説明

名前 間桐 氷夜 ひょうや

性別 男 年齢 16

身長 180センチ

性格 結構真面目だが、きれたり、自分に何かが起きたら性格が超変わる

容姿 ぶっちゃけ言うといケメン、細かく言うなら、いつか天魔の黒兔の紅 日向の片めがねとったバージョン。

チート能力 めだかボックスの異常、マイナスの能力 好んで使うのは不慮の事故 エンカウンター

前世は交通事故でなくなり神様に頼んでこの世界に来た、モテモテで女遊びが激しい、原作の女性キャラもほとんど、喰われている。

主人公説明（後書き）

自分は不定期で更新するのよろしく。

第1話（前書き）

すみません、前書きだるくなっ
たんで次からかけるかどうか

第1話

あれから六年した、いろいろあったりしたが結構楽しい日々だった、夜の出来事でも、旅をしている途中、衛宮の相棒、久宇舞弥に出会って一緒に出かけたりしたが。

あれこの人こんなキャラだっけと言うのが何回もあった、しかもなぜか惚れられてしまった、まあ俺的にはいいんだがな、しかも夜も、

「ああ／＼／」

なんて声を出すから興奮しちまったぜ、終わって、別れる時も

「次会ったら、またしてくれ／＼／」

なんて言うからさ困ったぜ、まったくモテル男は辛いぜ。

しかし今はそんなこと言ってられない、もうすぐ聖杯戦争が始まるのだから、もう令呪ある触媒手にいれた、そういえば、この前遠坂の次女が家に来た、まあしょうがないけどね、俺のことを間桐と知っているのは、臓硯だけほかは、ただの、臓権の何かしか思っていない、桜が来るのは必然さ、兄さんも臓権に、刻印蟲をうえつけられていた、因み兄さんは修行中だ。

しかし、俺はイレギュラーな存在だが大丈夫なのか、原作の人物はしっかりとせいはいに出られるのだろうか、まあ俺の知ったことではないがな、

そうそう、俺の手に入れた聖遺物なのだがどうやら、誰の触媒なのか分からないらしい、しかしそれも、おもしろい、スリルがあつて

まあいつだって時は俺の異常で勝ち抜くか。

ついでに、女も喰わせてもらおう。

「氷夜よ、そろそろ、サーバントの準備を始めろぞ」

俺が考え事をしていたら臓硯が言ってきた

「ああ」

さてと、聖遺物も置いたしそろそろ詠唱をするかね。

「閉じよ（満たせ）、閉じよ（満たせ）、閉じよ、（満たせ）閉じよ（満たせ）閉じよ（満たせ）繰り返すつどに五度、ただ、満たされる刻を破却するー」

詠唱をしている時にふと思ったたもしも原作の英霊を呼んでしまったらどうしよう、アルトリアをよんでしまったらどうしよう

「・・・告げる。汝の身は我が下に、我が命運は汝の剣に。聖杯の寄る辺に従い、この意、この理に従うならば応えよー」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0379z/>

間桐の最強の魔術師

2011年12月1日17時53分発行